

『5分後に君とまた会えるラスト』を読んで

弘前市立福村小学校 小野 穂香

私は本が好きでよく図書室へ行きます。次はどんな本を讀もうかなとさがしている時に、この本を見つけてました。表紙の絵がすごく私好みで気になって少し読んでみると、それはせつないラブストーリーで、少しかなしいけど、おもしろい場面もあり、どんどんひきこまれていきました。

この本の中にはいくつものお話が入っていて、私がとくにいんしょうにのこったのは、「きれいなきみとよごれたぼくで、えいえんのちかいを交わそう」というお話です。それはどんなお話かというと、せかいから日々失われる記ねん物といわれる、貴重なそんざいの物を見つけ、していされたところにつうほうすると、しゃれい金がしはらわれるというニュースが流れたことから物語がはじまります。ワニの少年と人魚の少女の、記ねん物同士のれんあいがこのお話のテーマです。記ねん物はずかまると「記ねん物てんじケース」にか

ざられてしまうのですが、ある日、湖にいた二人が人間にかまりそうになり、ワニの少年は自分がぎせいになって、人魚の少女をにがしてあげました。その様子をずっと見ていた少女は、もう一度少年に会いたい一心で、自分から人間に、「自分を少年と同じケースに入れてほしい」とたのみに行きました。そのねがいはかない、二人はずっといつしよにいたことができたのです。この少女のせつない思いにわたしはむねがいつぱいになりました。それと、少年がまずはじめに、自分をぎせいにして人魚の少女を守ったところがいんしょうにのこりました。この少女のせつない思いにわたしはむねがいつぱいになりました。いつかわたしも、「こんなこいがしてみたい」「大切な人を守るようなやさしい人になりたい」と思いました。